

細則様式第3号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	Valerie Goh Swee Ting		
入学年度	平成 31 年度	学籍番号	19GG801
領域	生体検査科学	分野	
審査委員	主査	中村 敏也	
	副査	細川 洋一郎	
	副査	門前 暁	
	副査	三浦 富智	

論文題目：

The study of radiation-induced chromosome aberrations in humans and mice for the improvement of cytogenetic biodosimetry techniques and furthered understanding of low dose-rate ionizing radiation.

細胞遺伝学的線量評価法の改善のためのヒトとマウスにおける放射線誘発染色体異常に関する研究および低線量率電離放射線のさらなる理解

審査結果要旨：

学位論文は、細胞遺伝学的線量評価法の改善や低線量被ばくの生体影響に関する5章の研究より構成されている。第1章では、染色体転座による線量評価の国際ガイドライン ISO 20046:2019 に記載されていない検量線作成法を提案した。第2章では、細胞質分裂阻害微小核 (CBMN) 法の国際ガイドライン ISO 17099:2014 に記載されていない分離単核球画分培養における新たな細胞固定法を提案した。第3章では、大規模放射線災害時にトリアージスクリーニングとして有効となる CBMN 法の培養時間の短縮を提案した。第4章では、トランスウェル共培養システムを用い、線量評価における全血培養と分離単核球画分培養の相違を明らかにした。第5章では、小児マウス被ばくモデルの大規模実験を行い、染色体異常の動態や、線量率効果に関する新たな知見を報告した。

学位審査論文では研究テーマにかかわる研究が系統的かつ過不足なく記述されていた。また申請者は最終試験における主査および副査による質疑応答にも的確に応答し、研究内容を十分に理解しており、研究テーマに関連する知識を十分有していることが確認された。以上より、本論文は博士論文として十分な内容を有すると判定した。また、被ばく医療における生物学的線量評価に関連した研究であることが認められた。

最終試験 令和3年 1月23日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。

(以下、被ばく医療コース選択者についてのみ記入)

論文のテーマは、放射線に関連した内容であると 認められる ・ 認められない 。